

自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（基本法制研修A第4期、第2部課程第189期）

愛知県安城市 太田 三貴

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

1 はじめに

私は、令和元年10月9日から11月8日まで基本法制研修Aを、令和2年1月9日から2月21日まで第2部課程を受講した。

基本法制研修Aは、主に都道府県の職員と指定都市の職員、第2部課程は、主に市区町村の職員が受講しており、私のように、基本法制研修Aと第2部課程の組合せの受講生は少数派（大半が基本法制研修Aと第1部課程、基本法制研修Bと第2部課程の組合せ）だった。最初は、少数派であることに不安を感じたが、結果的には、立場の異なる人も含め、多くの研修生と交流できたため、非常にありがたかったと思う。

2 校長講話について

校長講話は、基本法制研修Aでは、オリエンテーションの一部、第2部課程では、総合教養課目のうちのひとつだったが、校長がおっしゃった言葉を、研修期間中に幾度となく自分に言い聞かせていたので、ここに記しておく。

- ・同じ講義を聞いていても、そこから何かを盗んでやろうという姿勢で臨むか否かで得られる効果は全く異なる。
- ・時間は有限だ。何かを得れば何かを失う。休日や夜に、皆と交流するもよし、勉強するもよし、寝倒すのもよし。何かを選べばその他のことをする時間を失ったことになるが、ときには「今日の私は勉強する時間を犠牲にして1日休養をとったのだ！」というのも良いが、何を選択するのかは

自分の責任で決めるものだ。

- ・研修後半に向けてどんどんきつくなるが、仕事だ・辛い・嫌だと考えず、「自分は今、難問奇問コースに挑んでいるのだ。」と考えると楽しく取り組める。

3 基本法制研修Aについて

基本法制研修Aでは、仕事の根拠を確認する重要性和先進事例や判例にアンテナを高くすることの必要性を繰り返し説かれた。

基本法制研修Aの研修課目は、憲法・行政法・民法・財政学・地方自治制度・地方公務員制度で、地方公務員として必要とされる基本的な知識や実務に即した法令・制度を体系立ててご教授いただいた。第一線で活躍されている講師陣の講義はボリュームが多く、時に難解で混乱することもあったが、校長講話を自分への戒めとして、最大限盗み取れるように心がけた。

4 第2部課程について

第2部課程では、思い込みではなく、事実を基にした分析の重要性や住民の福祉の増進のために仕事をしていることを常に意識する必要性等を学んだ。

研修内容は、大きく分けると総合教養課目、政策形成能力を高めるための公共政策課目、地方自治体を巡る最新の話題、政策立案・事例・データ分析の各演習、講師養成課目となっていた。

第2部課程では、最終的に首長への提言を想定した政策提言を作り上げることとなっていたため、研修期間中は常に政策立案演習と並行しながら他の課目の受講や実習を進め、そこで学んだ手法等を政策立案に

生かし、現状分析や課題発見から財源、効果測定までを視野に入れて提言内容を検討した。政策立案演習は5、6人の班で行い、資料を緻密に分析し、班員の意見を一本の政策に収斂させていく作業は、多くの根気と議論を必要としつつ、限られた時間をいかに有効に使うかというマネジメント面でも大変勉強になった。

研修途中では、新型コロナウイルスの影響により研修続行が危ぶまれた時期があった。結果的には、研修期間が1週間短縮されたものの、卒業させていただくことができたが、その方針が決まるまでの間は、翌日にも研修終了の指示が出るのではないかという不安と戦いつつ、政策立案演習を進めていたため精神的につらい期間だった。そこから気持ちを立て直し、1週間短縮された中でも班で一丸となって演習報告書を作り上げることができたのは良い経験となった。

5 おわりに

久しぶりの学校生活、しかも人生初の寮生活を送り、非常に密度の濃い3か月だった。特に、寮の同じフロアで暮らした仲間や政策立案演習の班の仲間とは、多くの時間を共有し、家族や戦友のような感覚だった。全国から集まった仲間たちと、各自治体の様々な分野における現状・課題・施策について、直接議論し、意見交換できたことは大変有益であり、将来にわたる大きな財産となった。今後もこの繋がりを大切にしていきたいと思う。

あわせて、合計3か月も不在にするため職場に負担をかけるにもかかわらず、気持ちよく送り出してくれた上司と同僚の理解と支えがあってこそ、自治大学校での研修に集中し、無事に終えることができたのだと思う。職場の仲間にも恵まれ本当にありがたかった。この恩には研修で得たことを仕事に還元することで報いたい。

自治大学校の寮の玄関には「自律進取」の額が飾られていた。これは自治大学校での生活だけでなく、今後仕事をするうえでも常に求められる姿勢だと思う。「自律進取」の姿勢を忘れず、研修で得たこと・これから得ることを仕事に活かし、地方公務員として住民の福祉の増進に寄与したい。



(自治大学校寄宿舎エントランスホールにて撮影)